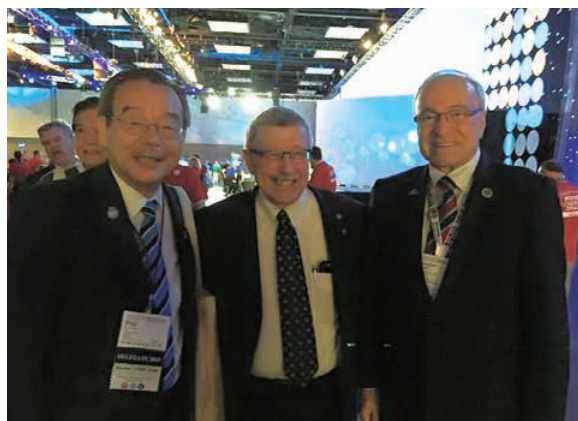




第100回国際キワニス年次総会 インティアナポリス大会報告

100周年記念と銘打って本部所在地の米国インディアナ州インディアナポリスのコンベンションセンターにおいて6月25日から27日までの3日間大々的に年次総会が開催されました。参加者総数は4000人を上回ったと言われていますが、日本からは36名の参加、当クラブからは14名の参加者を得て、100周年記念年次総会を大いに盛り上げたと言って良いと思います。前年に東京・千葉大会をホストしたため参加した沢山のメンバーの方々から東京・千葉大会は永く印象に残る素晴らしい大会で



あったと感謝の言葉を掛けてもらったのが嬉しかったです。開催日前日に会場入りし登録をいたしましたので、24日の夕刻に催されたウエルカムハッピーアワーには多くの本部役員も出席され懐かしく楽しい時間を過ごすことが出来ました。翌25日昼にモニュメントサークルでパンケーキ昼食会に参加しましたが、多くの会員ボランティアが準備するパンケーキは意外に美味しく若いキークラブの会員たちとも会話を交わしてキワニスドールファミリーの一体感を共有する事が出来ました。この日夕刻から始まった開会祝賀式ではキワニスの100年の歴史を振り返る寸劇などが本部役員を中心に演じられその構成

と確りした演技力に感動を覚えました。また、ダウン症候群で生まれレストランビジネスで成功したティム・



ハリス氏の基調講演は圧巻でハンディキャップを背負いながら夢を実現させた本人の強い意志と家族の支えは聴衆に強い印象と勇気をあたえてくれるものでした。「オー・ヤー」が前向きな強い肯定感を示すキーワードとなりました。26日は総会でジョン・バトン会長の一年の総括から始まり、前年度の優秀地区が表彰され、ここで日本地区も表彰されました。引き続き、国際キワニス財団と本部事務局の報告があり、議題である決議事項、本部規約の改正案について審議されました。ここで重要課題の国際キワニス会費の値上げが可決されました。これにより次年度から一人あたり42ドルの会費が52ドルに大幅値上げとなります。しかし同時に提案された本部理事会に毎年5%の範囲内で会費を調整する権限を与える改正案は異論が多く否決されました。総会の代議員投票にオンラインで行えるようにする改正案も時機尚早として否決されました。本部役員の見直しについてはスー・ペトリン氏の次期会長就任が確認され三大ボランティア団体では初めての女性会長が就任することが決まりました。



た。また将来の会長としての副会長には日本地区のカウンセラーであったジム・ロチフォード氏が選ばれました。27日の閉会式では、ジョン・バトン会長とスー・ペトリシン次期会長により次の100年のキワニスについて夢と計画が語られました。世界の子供達のためにまた地域のコミュニティーのために無くてはならない存在になっ

ていることが夢であり、このためにも成長への不断の努力が必要ということです。大会を通じて100周年のお祝いのイベントが多々用意されており、それぞれのプレゼンテーションも工夫されて参加者にしっかりと届くように準備された充実した大会であったと言えます。(吉田浩二会長)

インディアナポリス大会に参加して 2015.6.25-27



2015年度ASPACに続いて世界大会にも参加して参りました。8年振りのUSA、インディアナポリス3泊の前にシカゴ2泊、後はニューヨーク3泊で挟み、往復2泊、計10泊の旅、英語が錆びついている、ESTAのようなものが現れ、為替は様変わりだし、「大丈夫かしら？」と内心不安な旅立ちでした。3都市それぞれ異なり、見るもの聴くものが違ったので、本稿はどこまで記述すべきかと悩みながらの文面です。

シカゴは米国第2の都市、金融と世界的大企業の本拠地、歴史的建造物即ちハイレベルなビルが立ち並ぶ建築学のメッカでもある。南北500kmのミシガン湖(東京大阪間の距離の湖:海です)を背にして、木々と花の街路、排気ガスと無縁の、清潔、洗練された都会で、初めての私にはとても魅力的な街だった。勢い、インディアナポリスの印象は「田舎町」になってしまい、ごめんなさい。

さて、インディアナポリスについて。1825年にインディアナ州の州都になり、南北戦争では北軍一番乗り、20万人以上の戦士が全戦線で戦ったという、記念碑が立派。20世紀から工業都市として発展を続け、インディ500のカーレースが世界的に有名。街には浦安の数倍のコンベンションセンターと周辺には高名なホテルが軒を並べ、世界規模の大会議の開催もこの街の主要産業であるらしい。ハードウェアは合格点、然し、か弱き日本民族にとっては、会議のハシゴには歩行数が多くてゲンナリ、運動不足解消には効果的。

キワニス100周年の記念大会であり、主催者は念入りに準備した様子で、記念イベントが目白押しであった。アメリカ国内から、飛行機よりも自家用車に家財道具一式満載で参加する光景が目をついた。アジア、日本、欧州からは、遙々と海を越え空港に到着、案内がイマイチで、お客の顔には笑みが少ないようだった。

本番のスピーチは、スピーカー自身が陶酔し、予定時間オーバーの連続であった。当然、全部英語であり、消灯している会場内のアジア人の臉も閉じ気味、会議やイベントの殆どが、耳に残らなかったのは、私だけの不徳の致す処か？ 歓迎会や、最終晩餐会共に、飲食サービスは無に等しく、大会参加登録料575ドルは何故？ 最大イベントは最終日、ホテル真ん前のインディアナポリス野球場でのマイナーリーグ観戦、地元家族連れの野球場における行動様式を垣間見られたのが面白かった。就学前の子供達のマナーの良さの要因を、日本の父親は学んで欲しい。

一番目を見張ったのは、子どもも含めて老若男女の半分以上が、肥満体であること。日本で言うメタボの3倍位の脂肪が人間の形で歩いている！ シカゴやNYにはスリムな人もいるのに、インディアナポリスのみなのか、キワニスメンバーの集合のせいか？ アメリカ合衆国政府の最重要課題であろう。

日本からの参加者34名、東京14名は、国の経済規模、日本地区の寄付金額に比して小規模でインパクトが弱かったせい、私の印象も少々辛口になり、心苦しい限り。東京組は夜毎に集い、肉食系夕食とワインで和気藹々でしたが、今後の世界大会参加への日本地区としての一工夫を必要と感じました。

インディアナポリス最終日の朝は雲一つ無いブルスカイ、市庁舎、州議会エリアの芝生で、リスが数匹歓迎してくれました。

皆様良くと承知のNYは、割愛。

国際大会のお陰であちこち廻れて、現役時代とは異なる、旅日記を書けました、多謝。

(寺崎志野広報委員長)

国際役員会に出席して

インディアナポリスでの国際大会に先立ち6月23日と24日の2日間、国際役員会が開催されました。今回討議された事項のハイライトは、次の通りです。

1. キワニスのSLP活動を統括するキワニス・ユース・プログラムの役員会により、北米地域以外の地域のユースプログラムのクラブは、毎年会員名簿の更新をすること、Tier A国は年会費として\$50を納付すること、その他の支援策が決められ、有料とはなるが、SLPのサポートの強化を図ることになりました。
2. 国際会費の増額案に関する意見の収集と討議が行われ、国際キワニスとしての対応策と方針の確認が行われました。
3. 各役員会の2015-16のカウンセラーとしての担当地区を決められ、今までと違い、それぞれ自分の地域内の地区のカウンセラーを務めることとなりました。北里は2014-15年はペンシルバニア、ミシガン、韓国担当でしたが、2015-16年は、台湾、マレーシャ、韓国を担当します。日本担当カウンセラーにはフィリピン南のケン・



アロベラ理事が指名されました。

4. 国際キワニスの役員会には6つの委員会があり、一人の理事が2つの役員会の委員を務めます。北里は、2014-2015年は、メンバーシップと成長委員会及び広報イメージ及びマーケティング委員会の委員を務めましたが、2015-2016年は監査及び財務委員会と広報イメージ及びマーケティング委員会の委員を務めることになりました。

(北里光司郎国際理事)

国際本部見学ツアーに参加して



2015年6月25日午前中、インディアナポリス大会の行事の一環として、同市の郊外にある国際本部を訪問した。日本からの参加者は7人であった。

まず、本部の立派さに感銘を受けた。広い敷地の中に広大な建物があり、庭には大きいオブジェクトが立っていた。玄関前の敷石には、名誉あるヘリテージ・ソサイエティのメンバーの名前が刻まれていた。我々は、佐藤元KI・KIF理事、小田元KI理事、清重元KIF理事の3名のプレートを発見した。

国際役員会の会議室には北里国際理事の指定席がありネームプレートが席上に置かれていた。日本からの贈り物が陳列されている棚もあった。日本人形、兜の模型、着物を着たキワニスドール2個が並んでいた。100周

年記念の6層建てのケーキも飾られていた。もっともレプリカで、食用には供せない。

国際本部にはおよそ160人の職員が勤務していると聞いている。執務室、役員室、会議室等いずれもゆったりとしていて、執務環境は極めて良好であると感じた。今後ともキワニス世界のヘッドクォーターとしての活発な活躍を期待する。(藤原武平太前会長)



インディアナポリス大会でのエリミネイト・プロジェクト

インディアナポリス大会でのエリミネイト・プロジェクトに関する最大の話は、何と云っても、キー・クラブ・インターナショナルの会長のマリア・パラゾロさんが、300万ドル(約3.6億円)のプレッジを5年間で達成することを発表したことです。キー・クラブは高校生

のクラブで、既に400万ドルの募金を達成しており、合計すると700万ドル(8.4億円)になります。会員は全米20万人いますが、実際の募金は、ハロウィーンでエリミネイトの募金をするとのことでした。高校生ボランティア活動で、これだけの金額の募金を目指すというアメリ

カのパワーを感じました。その後北米各地区によるプレッジが続き、8月末に総額1億ドル達成になりましたが、高校生たちの大胆な発表が、その引き金になったに違いありません。

2年前のバンクーバー大会では、エリミネイト・プロジェクトが多すぎるとの声があったほどでしたが、今回は、エリミネイトのプログラムは、モニュメントサークルでのパンケーキ・イベント、エリミネイトのお祝いと表彰イベント、メジャーギフト・ドナーのパーティ等と割と限られていたと思います。日本地区の参加者の方は、6月25日のEliminate Project Celebration & Recognitionに出席されました。



エリミネイト・プロジェクト祝賀会に出席した日本地区の参加者
(北里光司郎日本地区エリミネイト・コーディネーター)

台湾地区大会にカウンセラーとして出席して 2015.8.15

2015-16年のカウンセラーとして台湾地区を担当することになり、8月15日-16日に台中で開催の第41回キワニス台湾地区大会に出席しました。大会の参加者が約2700名という盛大な大会でした。

会場に行く前に、早朝、市の公園に子ども達のための遊具を寄贈するセレモニーに出席しました。国際キワニスの寄付により実現したもので、市長を初め台湾地区のリーダーシップチームの出席により、盛大なオープニングが開催されました。その後、大会会場に到着して、まず驚いたことは、出入り口に立ち並ぶ人の賑やかさでした。そのわけは、ガバナー・エレクト候補の選挙に3人の候補が立っているため、選挙の応援者が出入り口に並んでいるためでした。



開会して最初の2時間は各地から参加した代表が並んで次々に壇上に上げられて会長と握手し紹介されるセレモニーが延々と続きました。台湾では、認知が大変重要で、これをちゃんと行わないと不満が出るそうです。それが終わった後、国歌斉唱となり、全員起立して「君が代」斉唱が始まりました。日本から出席した私たちの為に全員が君が代を斉唱してくれたのには、正直、感動

しました。その後台湾政府代表来賓及び主催者のあいさつに続き、国際キワニス代表のカウンセラーとして北里及び国際キワニス財団代表のカウンセラーとしてマレーシャのファン-シンさんがそれぞれ5分の挨拶を行いました。

夜の会食には、3人の立候補者の応援団が、会食の席まで入って来て大賑わいの中で終わりました。演奏する音楽も半分は日本の音楽のようでした。

翌日は、総会が10時から5時まで行われ、収支の問題、児童基金問題、国際会費値上げ問題、エリミネイト募金活動、規約改正等について、フロアから意見が次から次へと出て活発な討議が行われました。最後に国際キワニスとしてのコメントを求められ、国際会費増額問題に関する国際キワニスの意見について述べ、協力を仰ぐとともに国際キワニスとしての支援の意向も表明しました。

総会の合間の昼食時には、エリミネイトのメジャーギフト・ドナーの表彰の昼食会が行われ、エリミネイトへの関係者と懇談をしました。閉会のディナーでは、選挙で当選した候補者と同じ席で会食をしました。当選した候補者も落選した候補者も壇上に上って感想を述べ、大変熱のこもった会食でした。

最後の日に、ASPAC会長のルーさんやガバナーの案内で台中のチャングア市周辺を案内してもらい、最後に台湾地区の2012-13ガバナーの簡珠清の主導で建立したエリミネイト・タワーを訪問しました。台湾の寄付者の名前が彫り込まれており、場所も子どもの公園の一角にあり、台湾地区の人たちの意欲が伺われるモニュメントだと思いました。

台湾地区は、大変熱気の籠った地区です。日本地区としては、長期的な人と人の関係を構築しておくことが大事だと思いました。

(北里光司郎国際理事)

第39回国際キワニス日本地区年次総会埼玉大会報告 2015.9.4



9月4日大宮の清水園で第39回キワニス日本地区埼玉大会が開催されました。全国のキワニスクラブから400名を超える会員とゲストが参加する立派な大会となりました。東京クラブからは総勢37名の参加で主催クラブの埼玉クラブを除いて最大のデレゲーションを送り込んで大会を盛り上げました。来賓には会員でもある上田埼玉県知事、清水さいたま市長を迎え、国際キワニスからはフィリピン南地区の元ガバナーで現在国際理事で日本地区カウンセラーのケン・アロベラ氏、国際キワニス財団からは、マレーシア地区の元ガバナーで国際理事を務められ、現在財団トレジャラー（2年後に財団会長に就任予定）のファン・チア・シン氏が参加されて、それぞれから日本地区としての活発な活動に対する心温まる祝辞を頂戴しました。いつものことですが、日本地区の大会日程は1日のため9月4日は朝7:45から夜20:30まで歴代ガバナー会議から懇親パーティまでびっしりと予定が詰まっています。総会は14:30-15:30ですが、今年はここで次年度の事業計画、役員人事、埼玉大会決議案などが審議され採択されました。引き続き、

次年度のガバナー選任が確認された高松クラブの倉田康男氏から次年度のガバナー方針が発表され、次年度地区大会開催クラブの西宮クラブ会長の安原裕氏から予定された大会の概要の説明と参加歓迎の意が表されました。表彰式では国際キワニス並びに日本地区から各優秀賞の表彰が行われました。その中で今年度の日本キワニス文化賞として当地の子ども達が活躍する子ども歌舞伎と獅子舞の保存会2団体が表彰されました。また、ロバートP・コネリー賞並びに英雄的自己犠牲賞には踏切り内ではしゃがんでいた年寄りの男性を助けるために踏み切り内に入り共に列車に撥ねられ亡くなった中村のり子氏が受賞されました。懇親パーティでは美味しい料理に埼玉県の地酒が振舞われるなか、前述の日本キワニス文化賞を受賞した2団体の子どもによる伝統的な獅子舞と白波五人男の演技に見惚れ、和気藹々のひと時をすごす事が出来ました。こうした素晴らしい大会を楽しむことが出来たのは、埼玉クラブの会員が一致団結して手作り企画し、しっかりとした準備をされたご努力の賜物と心から感謝したいと思います。

(吉田浩二会長)



埼玉大会印象記

東京に住みながら、お隣の埼玉にはゴルフ場以外に訪れることは殆どなかった。9月4日の昼下がり、新宿から40分足らずで大宮に到着。年次総会ではひたすら“静聴”に徹し、夜の懇親会に備えエネルギーの温存につとめた。



400人ものパーティーだけに、てっきり buffet 形式と思っていたが、全員 sitting での大晩餐会であった。この

会場の経営者であるキワニアンのお力添えによるもので、他のところではこうはいかないだろう。

オープニングの出し物が素晴らしく、印象的だった。今年度の日本キワニス文化賞に輝いた小鹿野こども歌舞伎と小針領家獅子舞が賑やかに披露された。

小鹿野歌舞伎は江戸時代後期から伝わる、すべて自前で賄う地芝居のデパートと言われている。そのひとつのこども歌舞伎は小学5年から中学2年までの生徒によるもので、当夜は「白浪五人男」の稲瀬川勢揃いの場が演目、あどけない「盗賊たち」の熱演に拍手が止まなかった。小鹿野町は人口約12千人の秩父の町だが、衝撃の書「地方消滅」によれば多くの市町村同様、将来の人口急減が予測されている。

「五人男」の威勢のよい啖呵を聴き獅子舞を見ていて、本来ならこの場にいる筈の堀井さんのことをなぜか想っ

た。総会でも「堀井ガバナー」の近況が報告され、他クラブの皆さんも心配しておられたが、獅子舞の「悪病退散」の祈りが通じて、あの元気な姿で戻ってきてほしいと願うこと切である。実際、この獅子舞の威力は凄いのではないか。総会の4、5日あとに北関東を襲った台風18号の大雨で小鹿野町も影響を受けたが、被害は最少限度で済んだと聞くからだ。

最後に印象的なことをもうひとつ。同じテーブルには九州からの方が多く、沖縄地区でのクラブ設立の話で盛り上がり、沖縄とご縁がある身として少しは橋渡しをすることができた。これが実を結び、いつの日かデイゴの花咲く町で地区大会が開かれることになればと夢見ている。
(佐々木信行監事)

キワニスドールをつくる会報告

○さる7月18日(土)午後1時半から4時過ぎまで、当クラブが主催して、(株)パソナのご厚意により、本社の広い会場において、「小さな天使」を楽しくつくる会を開催しました。5月16日(土)のシンポジウムの際の予告や古屋副会長や狩野事務局長のご尽力による大手新聞、テレビ関係の広報・取材の影響もあり、初めてドールづくりを経験される方の参加が多く、またベトナムからの留学生や家族連れも含め当初の予想をは



最後に吉國副会長の挨拶をもって閉会しましたが、連休の初め酷暑の中、大勢の方に参加頂きましたことに感謝するとともに、学校、企業の他に一般の方からも「次回はいつですか?」の質問が多く寄せられるように、こうした機会を催すたびにドールへの関心が高まるのを実感し嬉しく感じますが、今後そうした期待にクラブとしてどう取り組んでいけばよいか、多くの宿題も頂いたように思えました。

なお、6～9月のドールをつくる会は、上記の他、以下のような各学校、企業に委員が出向き、指導をいたしました。特にこの期、東京医大霞が浦看護専門学校やMSD名古屋工場に委員が手分けして遠征しました。今回初めてのMSD名古屋工場では、両親と小さい子どもの組み合わせによるドールづくりの企画で、品質の面を含め指導面ではそれなりに苦労はありましたが、終始笑顔溢れる熱気に包まれた中で、参加者から「子どもが子どもさんを思いやる優しい気持ちを抱くようになった」といった感謝の言葉を多くいただき無事終了しました。



ジャックス 9/7

るかに上回る100人にのぼる多くの方々に参加していただきました。

吉田会長の挨拶のあと、所狭しとなった会場を分けし、ミシン掛け、アイロン、綿詰め、脇綴じの各コーナーでボランティア委員を中心に多くのキワニスメンバーが指導員となり、「ワイワイ楽しく」ドールづくりに熱心に取り組まれました。

「たかが綿詰め、されど綿詰め」の難しさを実感しつつ、愛情を注ぎ作り上げた天使を抱きしめた後、子どもさんが元気になるためにお役にたてる喜びを感じつつ、皆さん、旅立つ天使に名残を惜しんでおりました。

初めて参加された東京子ども専門学校の尾島講師から、北里委員との交流の中で、「心温まる清々しい体験でした。試練を負った子どもたちのために、心身を遣うことにより自分自身が育てられている、力づけられていると感じました。今後ドールづくりを正式授業に取り入れたい」との感想が寄せられたほか、(株)ジャックスやウエルスファースト証券等からも、今回の経験を踏まえ、今後会社のボランティア活動に是非とも取り入れたいとの強い要望が寄せられております。

6～9月のドールをつくる会

6月6日(土) 田園調布学園

12日(金) 桐朋女子中高等学校

21日(日) 慶応義塾大学看護学科

7月29日(水) 東京医大霞が浦看護専門学校

8月24日(月) アクセンチュア

29日(土) MSD名古屋工場

9月7日(月) ジャックス

19日(土) 目黒星美学園

(片山仁志ボランティア活動委員長)



目黒星美学園 9/19

キワニスドールをつくる会に参加して

7月18日にパソナグループ本社で開催されたキワニスドールをつくる会に参加させて頂きました。今回は総勢100人以上になっていたと思いますが、私自身はキワニス歴はまだ3か月ですので、ドールをつくる会も今回2回目となります。前は作り方を丁寧に教わるのに精一杯で、参加者はキワニスのメンバーのみでしたが、今回は様々な外部の方にご参加頂き、殆どが外部の方で楽しみながら多くの方と時間を共有することが出来ました。ドールをつくるのも若干慣れてきた様で、周りの方とのお話も場を楽しむのにプラスに働いていたと思います。特にこの会に参加されている方は日頃からボランティア活動に積極的なNPOの方や、今回はパソナグループの



海外からのインターンの方であったり、個々が思いを持って活動されているので、ドールをつくる会においても主旨を十分にご理解されて心を込めて作業されており、会話の中でその気持ちが私にも強く伝わってきました。今回は隣のUSAからのインターンの学生に刺激されて一緒に2個ずつ作りました。本来はドールをとじるために縫わなければいけないのですが、小学校以来の裁縫は難しく、最後はNPOの方をお願いさせて頂きました。しかし、今回参加された皆さんが共通に感じたことは「参加して良かった」ということではないかと思います。そしてこのような奉仕活動の積み重ねにより、その輪が拡大していく事の重要性とその更なる可能性を再認識出来た大変有意義な機会であったと思います。今後も様々な活動に参画して行きたいと考えています。(木本健会員)

ようこそ! 「子ども食堂」へ 2015.6.30

6月30日(火)豊島区の「区民ひろば上池袋」で当クラブ初の「子ども食堂」を開催しました。ひとりっ子・共働き・シングルマザー・ファザー等から「孤食児童」は増える一方です。子どもを中心に多様な顔ぶれで語り合いながら「美味しく」食べる機会を提供したいと考えたものです。41人の子どもに地元の老人・NPO・ソーシャルワーカー等も加わり、キワニアン18人を含め約100人が集まりました。

協賛の学士会館精養軒の総料理長が長いコック帽姿で特製ビーフカレーを配り、子どもたちは一緒に写真を撮るなど大喜びでした。

食後は中村・佐々木・小野の3会員による手品コーナー(見せ・教える)に子ども達の輪が出来、大きな歓声が上



がって居ました。

「子ども食堂」は、今回お世話になったNPO法人「豊島子どもWAKUWAKUネットワーク」の協力を頂きながら今後継続開催して参ります。

(鈴木祐二事業企画委員長)



「子ども食堂」に参加して

6月30日、東京キワニスクラブにとっては初めての企画「子ども食堂」に参加いたしました。色々の事情で夕食を一人で食べることが多い子ども達と一緒に食事をし、楽しいひと時をとという趣旨でしたが、正直言って初めて会う子ども達と共通の話題があるわけでもなく、どうということになるのか心配がありました。

しかし、献立のカレーライスを作ってくくださった学士会館精養軒総料理長大坂勝さんの正装のコック姿と、おいしいカレーの香りで、あっという間にうちとけ、和気藹々、楽しい食事会になりました。大坂さんが子



も用にコックの帽子を用意して、それを子どもにかぶらせて一緒に写真におさまってくれたことや、東京MX TVの取材でカメラが入り子ども達へのインタビューが行われたことも会を大いに盛り上げたと思います。

事業企画委員会の「挨拶なし、シナリオなし、すべては自然にまかせて」の作戦は成功したようです。

食事のあと、ロビーで小野会員、佐々木会員、私の3人が余興として子ども達にマジックを教え、一緒に楽しみました。習ったマジックを家の人に見せたいと言って何度も何度も練習する子ども達の熱心な姿が忘れられません。なんとなく良い一日になったかなと感じたひと時でした。
(中村禎良会員)

第31回東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式・交流会

2015.9.5

平成27年9月5日青山のドイツ文化会館において、第31回青少年教育賞の表彰式・交流会をキワニス日本財団からの助成をいただいて開催しました。

今年の最優秀賞は自由学園ネパールワークキャンプと上智大学 めぐこアジアの子どもたちを支える会、優秀賞は慶應義塾大学 SFC 岡部研究会でした。

アジアの子どもたちのボランティアを数十年続けている2団体は募金活動とともに毎年現地での支援活動を実践しており、ネパール震災支援とあわせた現地ワークキャンプの活動報告から学生たちの奉仕活動への気概と長年の継続の力を強く感じました。サイバー防犯ボランティア活動は正義感を失わない青少年の健全な育成に大きく貢献することが期待できます。

表彰式に続きキワニス・ユースフォーラムの紹介と参



加6団体の活動発表を行いました。

交流会には受賞団体29名、ユースフォーラム参加団体34名ほかキワニス会員を含めて合計85名の参加があり幅広く意見交換や情報の交換を行いました。

(渡辺通春青少年教育委員長)



第49回社会公益賞表彰式を終えて

2015.9.18

当初7月18日に予定されていた表彰式を、都合により9月18日に変更実施しました。当日、優秀賞の「音楽の花束」代表の後藤京子氏が出席できず、代表のご友人である当クラブ会員（休会中）三野耕司氏が代理受賞されるハプニングがありました。無事終了しました。

最優秀賞の「ひまわりProject Team」代表理事 藤原千里氏からは、活動の実態と今後とも厳しい状況で活動をしてゆかねばならない実情をお話され、会場の会員は、重度心身障害者の将来に思いを致して、引き続き手を差し伸べてゆく必要性を痛感した事でありました。

優秀賞の「子どもとともに楽しむ音楽会「音楽の花束」」の代理受賞者三野耕司氏は代表後藤京子氏の謝辞を代読されました。

両氏のご挨拶後盛大な拍手をもって表彰式を締めくくることが出来ました。

選考の経緯を簡単に下記します。

当初「東京都福祉保健局」から推薦1団体、及び「東京ボランティア・市民センター」から5団体の情報提供を頂き、また会員からは3団体の推薦があり、社会公益委員

会委員で手分けして、其々の団体の活動状況を実地に調査しました。

活動の拠点が神奈川県であるとか、5年以上継続しているとの基準に合致しなかったり、全国的な活動で高額の助成を受けているといった団体を対象外とする等、調査の結果を委員会に諮り、最優秀賞を「ひまわりProject Team」に、優秀賞を「子どもとともに楽しむ「音楽の花束」」に贈ることを決定し、6月9日の理事会において承認をいただきました。
(迫 秀一郎社会公益委員長)



一般社団法人東京キワニスクラブ臨時総会開催 2015.9.18

9月18日、第49回キワニス社会公益賞表彰式に引き続き、臨時総会が開催されました。議題は、平成28年9月期の事業計画並びに収支予算書の審議でした。吉田会長が定款19条により議長を務めて、開会宣言を行い、狩野事務局長から、出席62名、議決権行使書の提出者90名、合計152名に達し、総会員の議決権の過半数を有しており、総会が有効に成立していることが報告されました。

まず、平成28年9月期事業計画書について、今期は各事業の充実・強化といった地道に足元を固めていくことに力点を置いて取り組んでまいりましたが、次期は、一



歩踏み込んで、キワニスドールづくりに加え、「子ども食堂」開催の定着、各委員会相互の連携強化、「老・壮・青」の会員がうまく関われるようなイベントの開催等、「行動するキワニスクラブ」を実現していくほか、広報活動の積極展開、山梨、長野、群馬、栃木、茨城の関東甲信越ベルト地域へのキワニスクラブ新設にも注力する旨、事務局長が説明しました。続いて、同収支予算書につき、事業計画と連動した予算の内容を、鏡川財務委員長が説明しました。審議に入り、特段の異論もなく、満場一致で承認されました。

なお、キワニス年度は10月1日から始まりますが、役員の任期は、定款27条により定時総会終了時までとなりますので、次期新理事の選任は、11月開催の定時総会の審議事項となっておりますが、参考までに次期役員候補者（案）を配布し、新旧役員間の連携を強めていきたい旨、議長から補足説明がなされました。
(狩野省市事務局長)

大垣クラブチャーターナイトに出席して 2015.7.6

7月6日愛知県大垣市大垣フォーラムホテルで日本地区32番目のクラブである大垣キワニスクラブのチャーターナイトが開催されました。全国のキワニスクラブから30人を超える代表が駆けつけました。大垣クラブは36人の会員による発足ですが、大垣市、大垣市財界の



サポートを得て、順風満帆の船出をされました。大垣クラブ新設の話は3、4年前から話題に乗っていましたが、主導的なお立場で推進の一端を担っていただいた西濃運輸の田口義嘉壽会長が岐阜国体が終わってから取り掛かるとのことで、無事国体が成功裏に終了した後、速やか

に財界を取りまとめていただき今回の発足となったものです。大垣市内駅前に事務所と会議室を構えるなど世界の子どものための奉仕活動に既に本腰をいれられています。既に、ここでキワニスドールを作成し病院に納入されています。(吉田浩二会長)

福井クラブ チャーターナイトに出席して 2015.8.5

福井キワニスクラブのチャーターナイトが8月5日夜、市内のホテルフジタ福井で開かれ、親クラブの東京キワニスクラブから吉田浩二会長ら多数の会員が出席した。

同クラブは5月23日に設立総会を開き、全国33番目のクラブとして発足。2ヵ月半の準備期間を経て、認証状授与式を迎えた。

この日の式典には、西川一誠福井県知事や地元財界のリーダーが来賓として出席、全国各地のクラブからも多数の会員がお祝いに駆けつけた。認証状は日本地区の小川恵三ガバナード代理から福井クラブの徳本達之会長に授与された。

あいさつした徳本会長は「子どもの学力・体力日本一、

幸福度日本一の福井県だが、それでも病気や、障害を持った子どももいるし、子どもの貧困の問題もある。子どもたちが幸せに成長することを願って、温かく心のこもった福井らしい活動をしていきたい」と抱負を語った。

福井クラブは3つの特徴がある。第1は設立の経緯。福井県出身の東京クラブ会員が2013年12月に福井県人サテライトクラブを結成し、ここが母体となって準備を進めてきた。これは今後のクラブ新設のひとつのモデルとなる。

第2は会員の人選。「子どもたちのための奉仕活動」というキワニスの目的を強く意識して、教育関係や福祉関係に携わる有力者を集め、県私立幼稚園協会会長をつとめる徳本氏が初代会長に就いた。これには会員集めに奔走された奥村正昭事務局長の行動力に負うところが大きい。

第3は今後の活動。これも、子どもの支援に力点を置き、具体的な計画を練っており、必ずや大きな成果をあげてくれるに違いない。

このような新しいクラブが全国各地に広がっていくことを願ってやまない。

(鈴木健司クラブ新設委員長)



「サマーパーティー」の報告



昨年同様7月30日にライオン銀座七丁目ビル6階クラシックホールでサマーパーティーが開催されました。今年も演奏と食事の二部構成でアトラクションには津軽三味線の齋藤沙希さんが登場しました。齋藤さん

は大学四年生ですが五月には津軽三味線全日本金木大会で最高賞の「仁太坊賞」を受賞されています。石川レクリエーション副委員長から若い女性で津軽三味線の名手のアトラクションはどうかという提案があり、華やかで賑やかで良いだろうということでこの企画を進めました。当初予定の演奏曲目に多少の変更がありましたが、参加者の皆様は熱心に聞き入っておられました。特に最後の「津軽じょんがら節 新

節」は津軽三味線特有の力強さに加え齋藤さんのテクニックをいかに発揮した素晴らしい演奏だったと愚生には感じられました。明るくはきはきとし、津軽訛りの愛嬌ある語り口も会場の雰囲気盛り上げるのに一役買っていました。アンコールには吉田会長から「十三の砂山」の声がかかり、楽しい演奏のひとつの幕となりました。第二部は齋藤沙希さんとお母様もご一緒に飲食をしながらの歓談で会員の中に津軽三味線を修業中の方もおられ話が弾んでいる様子でした。参加人数が43名で予想より少なく予定外の出費もあり、赤字かと冷や冷やし



ていたのですが、どうか若干の黒字で済ます事が出来ました。料理の量はもう少々必要だったと思います。これは参加人数と関連してくることもあります。委員会で告知時期、

開催時期等も検討しなければならないと反省しております。
(石井亜佳理レクリエーション委員長)

「鳥羽美花さんと訪ねる建仁寺と京の職人達」に参加して 2015.9.28-29

5月15日の例会で講師をされた鳥羽美花さん（染色画家、京都精華大学大学院芸術研究科教員）とご自身が襷絵を手がけられた京都五山第3位の建仁寺を訪ね、更に制作に関わられた京都の職人さん方を訪問しようという見学会が鈴木事業企画委員長のお骨折りで、レクリエーション委員会と合同で企画され、9月28日に京都・建仁寺の襷絵を鑑賞してきました。小書院の襷に書かれた墨色の8枚の絵は、ベトナムの湖を題材に禅の精神を表現されたそうで、静寂の中に自然の力強さを感じました。反対側の8枚の襷には、同じ湖を目の覚める群青色で絵がかかれていました。部屋に入った瞬間、はっとする鮮やかさでしたが、古い建物や苔の庭と調和して、過去と未来の融合のような感覚を覚えました。不思議な世界でした。この襷絵は、染めの着物と同



じ手法で制作するそうで、いろいろな京の職人さんが関わっています。翌日はそのお一人の糊の職人さんを訪ねました。着物が全盛期の時のままの大きな古い工場で、伝統の和糊を手作りしていました。今回の鑑賞会は、作者の鳥羽美花さんが丁寧な説明をしてくださり、また、前もってNHK番組のDVDで予習ができましたので、深く理解できて楽しい勉強会になりました。なんとも贅沢な鑑賞会でした。

建仁寺訪問の前に、西本願寺や六波羅蜜寺のご案内もあり、一観光客では見ることができないところも拝観できました。夜の宮川町の京懐石も美味しくいただきました。宿の手配も含めて、幹事さんたちありがとうございました。

(青野厚子会員)



新入会員オリエンテーションに参加して

秋雨前線の影響で少し肌寒い雨が降る中、新橋の「倶楽部エル」で開催された新入会員オリエンテーションに参加させていただきました。

17時からのキワニスドールづくりでは、向かいの席の吉田会長にドールづくりのコツをお教えいただきながら、何とか完成。その後、これまでに三千体以上のドールを作られてきた星会員に綿のバランスを調整していただき、一応合格となりました。星会員のお話を伺いながら、今度ドールを作るときには、子ども達がドールで遊んでいる姿をイメージしながら、病気が治りますようにという祈りを込めて、綿詰めしようと思った次第です。



18時からの懇親会では、昨年入会された都甲会員はじめ7名の新入会員に



よる自己紹介の後、副会長、委員長より委員会の活動内容等についてのご説明がありました。ボランティア活動やクラブに対する想いなども伺うことができ、あらためてキワニスクラブの素晴らしさを再認識した有意義で楽しいオリエンテーションでした。

キワニスクラブには、同じ勤務先の狩野事務局長がお声掛けしてくださり、そのご縁で吉國副会長にも推薦人になっていただき、今年5月に入会させていただきました。素敵に年齢を重ねられた会員の皆様から学ぶことが多いキワニスクラブ、その活動に参加することを通じて、新たな社会とのかかわり方を発見していきたいと思っております。(田口徹会員)

2015年6月から9月までの活動

2015 年 6 月	2	火曜会
	5	第2202回例会(講師:花房晴美氏)
	6	田園調布学園ドールをつくる会
	9	火曜会
	11	第74回日本酒を楽しむ会
	12	桐朋女子中高等学校ドールをつくる会
	16	火曜会
	18	第22回ワインを楽しむ会
	19	第2203回例会(講師:宮越極会員)
	20	夢スピーチコンテスト東京
	21	慶應義塾大学ドールをつくる会
	23	火曜会
	23	第92回囲碁愛好会
	25	宝塚観劇会(月組公演)
	25-28	第100回国際キワニス年次総会インディアナポリス大会大会
2015 年 7 月	30	火曜会
	30	キワニスワンデー「子ども食堂」
	3	第2204回例会(講師:関 啓子氏)
	6	大垣キワニスクラブ認証状授与並びに祝賀会
	7	火曜会
	8	第71回国際懇話会(講師:浜田宏一氏)
	9	第75回日本酒を楽しむ会
	14	火曜会
	17	第2205回例会(講師:杉本正征氏)
	18	キワニスドールをつくる会(於:パソナ)
	21	火曜会
	24	京都クラブ 祇園祭(後祭)例会
	28	火曜会
	28	第93回囲碁愛好会
	29	東京医大霞ヶ浦看護専門学校ドールをつくる会
	30	サマーパーティ
31	第2206回例会(講師:徳川恒孝会員)	

2015 年 8 月	5	福井キワニスクラブチャーターナイト
	7	第2207回例会 (講師:吉田誠男氏)
	18	火曜会
	21	第2208回例会(講師:佐藤正宏氏・伊藤守康氏)
	24	アクセンチュア 社会貢献プログラムドールをつくる会
	25	火曜会
	25	第94回囲碁愛好会
	27	宝塚観劇会(宙組公演)
	29	MSD名古屋工場キワニスドールをつくる会
2015 年 9 月	1	火曜会
	4	第39回国際キワニス日本地区年次総会埼玉大会
	5	青少年教育賞表彰式&交流会
	6	第46回文楽を楽しむ会
	7	ジャックス 社会貢献プログラム ドールをつくる会
	8	火曜会
	10	第76回日本酒を楽しむ会
	11	第2209回例会(講師:西川徹氏・森尾友宏)
	13	第46回文楽を楽しむ会
	15	火曜会
	18	第2210回例会(社会公益賞表彰式/臨時総会)
	19	目黒星美学園 キワニスドールをつくる会
	25	新入会員オリエンテーション
	27	大相撲秋場所観戦会
	28-29	鳥羽美花さんと訪ねる建仁寺と京の職人達
29	火曜会	
29	第95回囲碁愛好会	
29	仲秋の季節御神楽の儀	

2015年10月から2016年1月 今後の予定

2015 年 10 月	2	第2211回例会（講師：栗林知絵子氏）
	6	火曜会
	6	日本醸造学会懇親会
	8	宝塚観劇会
	8	第77回日本酒を楽しむ会
	9	身延山高等学校ドールをつくる会
	10	荏原看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	10	エリミネイト・プロジェクト支援第14弾コンサート
	13	火曜会
	13	MSD(株)社会貢献プログラムドールをつくる会
	15	第23回ワインを楽しむ会
	16	第2212回例会（講師：金井義邦会員）
	17	田園調布学園ドールをつくる会
	19	靖国神社秋季例大祭
	20	火曜会
	20	第72回国際懇話会（講師：瀧 統氏）
	25	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー
	27	火曜会
	27	第96回囲碁愛好会
	30	第2213回例会（講師：桜井 修氏）
31	広尾看護専門学校学校祭ドールをつくる会	
11 月	4	静嘉堂文庫美術館見学会
	7	埼玉クラブ チャリティディナーショー
	10	火曜会
	10	第78回日本酒を楽しむ会
	14	秋季ゴルフ大会（保土ヶ谷CC）
	17	火曜会
	17	東京家政学院ドールをつくる会
	19	宝塚観劇会
	20	第2214回例会（講師：大桃美代子氏）

11 月	21	田園調布学園ドールをつくる会
	23	第4回オペラを楽しむ会
	24	火曜会
	24	第97回囲碁愛好会
	26	東京子ども専門学校ドールをつくる会
	27	第2215回例会 定時総会
12 月	1	火曜会
	1	新旧役員懇親会（学士会館）
	4	第2216回例会（講師：江川豪雄氏）
	8	火曜会
	8	第79回日本酒を楽しむ会
	12	第98回囲碁愛好会（大会&忘年会）
	13	第47回文楽を楽しむ会
	15	火曜会
	18	第2217回例会（講師：岡部敬一氏）
	29	第九を聴く会
2016 年 1 月	8	第2218回例会 新年互礼会
	9	新春大歌舞伎
	12	火曜会
	15	第2219回例会（講師：阿部加奈子氏）
	18	大妻中野高校ドールをつくる会
	19	大妻中野高校ドールをつくる会
	19	火曜会
	20	大妻中野高校ドールをつくる会
	21	大妻中野高校ドールをつくる会
	26	火曜会
29	第2220回例会（講師：堤晴彦氏）	

■平成27年9月30日現在 総会員数231名

■平成27年6月1日から9月30日までに入会された方 3名

山下朗裕、曾又圭二、和氣秀樹

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて (破傷風から世界の母と子ども達を救おう)

国際キワニスとユニセフの協力で世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅します

2011年7月のジュネーブでの第96回国際キワニス年次総会に於いて、国際キワニスは、世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅するために2015年までに1億1千万ドルの募金活動を行うというエリミネイト・プロジェクトを正式にスタートさせました。この世界的なキャンペーン活動は、キワニスの国際ボランティアネットワークとユニセフの医療ネットワークの協力により進める歴史的なプロジェクトです。

エリミネイト・プロジェクトの基本データは次の通りです。

- 妊産婦・新生児破傷風は、スタート時は、9分に1人、毎日160人の赤ちゃんの命を奪っていたが、皆様のご支援のお蔭で、奪われる命が2015年9月現在11分に1人、毎日135人に減少した。
- 妊産婦・新生児破傷風は、1回60セント、計3回1.8米ドル(約180円)のワクチン注射で母と将来の赤



ちゃんの命を守ることが出来る。

- エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来る。

日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しています

2015年6月のインディアナポリスでの100周年の国際年次総会で、成果を「お祝いする」ことができました。

東京キワニスクラブは、先に達成した100Kクラブに続き、モデルクラブの目標\$165,000も5月20日に達成しました。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Nun-Keewanis”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、7,500のクラブ、約21万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井の順に生まれ、現在33のクラブで会員は約1,900名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 吉田 浩二 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>